

## 平成 30 年度 普通科特進国際コース F3-5 学級通信「凡事徹底」より

### ○第 100 号(100 号到達にあたって…)

1 日のうちでこの通信を作る時、私の頭は完全に「F3-5 のためだけ」の時間になります。クラスの雰囲気、その時々で伝えるべきことを今まで探してきたつもりです。その中には、**今現在の高校生活だけでなく、これからの将来を見据えて**大切にしてほしいと思うことも、たくさんの方のコメントを借りて伝えてきました。何か一つでも、心に残ってくれていることはあるでしょうか？

**今年もありがたいことに、懇談会や生徒を通じて『毎日読んでます』の一言をいただきました。私の座右の銘の 1 つに「誰か 1 人いたら続ける」という言葉**があります。先輩教員からかけられた言葉です。これを信じて、今までの教師生活を送ってきました。通信を毎日作ると宣言したのは今年で 4 年目。このきっかけを作ってもらったのも、本校の先輩からでした。**続けることの難しさを感じながらも続けることに使命感と緊張感をも持ちながら毎日過ごしています。**

最初は通信作成の宣言したものの、話の内容探しに必死でした。しかし、**続けていけば体は慣れますし、いつの間にか通信作りが楽しく**なりました。今思えば、高校生の時の大学受験もそうでした。**吐き気がした英単語と文法。**やめかけても続けたことで、受験で結果が出ました。**死ぬほど嫌いだった持久走。**参加してフルマラソンを一度完走すると今度はむきになって記録を狙うようになりました。どんなことも**続けていけば必ず自分の財産になる**…100 号を作るにあたって、少しだけ個人的な話をしました。卒業まであと 100 号足らず…お付き合いください。

### 第 144 号(激闘…春高バレー県予選決勝戦！)

11/23(金)に、春高バレー愛媛県予選の決勝戦が行われました。受験勉強・テスト対策が忙しい時期だったので、強制はできませんでしたが、**みんなにもぜひ見に行してほしい**と伝えました。それは、この試合を見ることによって、これからみんなが臨む「受験」に通じるものがあると思っているからでした。

フルセットまでもつれた試合…**最後に勝利の女神は東雲女子高校に微笑みました。**私が赴任して 15 年。過去最高の「激闘」だったと断言できます。私が見た中でも、これだけどちらが勝ってもおかしくなかった試合はありませんでした。監督の武市先生は、私の 1 つ後輩で、1 年遅れてカタリナ女子高校に赴任されました。

「常勝カタリナバレー部」を、前・一色監督から引き継ぎ、**「負けることを許されない」プレッシャーと日々戦い続けてきました。**後輩でありながら伝統と学校の名前を背負って戦い続けている彼を応援せずにはいられず、毎年必ず応援に行こうと決めています。今年も息子と娘、そして妻の両親と一緒に応援に行きました。



男女共学が 3 年目を迎え、応援の中に野球部や陸上部の男子もいました。会場が一体となって、この決勝戦に見入っていました。1 セット目を逆転で奪われ嫌な流れになったところを 2・3 セット連取。しかし東雲も連覇の意地を見せフルセットへ。一時大きく離された点差を、一気に追い上げ、会場のボルテージは最高潮に

達しました。フルセット 19-21 の激戦。試合後、挨拶を終えた本校の生徒たちは泣き崩れ、動くことができませんでした。最後の 1 点・その後の選手の様子を動画で見せましたが、何を感じてくれたでしょう？

みんなに「応援に行ってほしい」といったのは、勝っても負けてもこの会場で見ることができる「本気で戦った者の姿」を見てほしかったからです。

SC コースの生徒たちはみんなが学習に打ち込む時間に、それこそ伝統と責任を背負って部活に励んできました。

1 年間で何日休みがあるのでしょうか？それだけ努力しても、結果は残酷なときも多々ある…みんなは「明日受験本番」と言われて、悔いは残っていませんか？もし受験に



不合格だった場合、泣けるほど努力してきたという自負はありますか？ジャンルは違っても、「努力の価値と思い」は同じはず。バレー部は「伝統」取り返すプレッシャーを背負って戦い抜いたと私は思います。次はみんなが「カタリナ学園高校の 1 期生の進学」を背負って受験に臨んでほしいと心から願っています。